

くまがや自治連だより

ひろば

第9号

平成23年3月発行

行政と協働

副会長 嶋田 忠男

協働とは同条件の関係で協力して働くことと広辞苑にはあります。

行政に於いては、協働による計画の推進が呼びかけられております。各々の地域の市民全員が支え合い、助け合いのある理想に近づけていくには、行政だけの取り組みでは不十分であり、市民との協働が不可欠であると言われております。

熊谷市総合振興計画の中にも『市民と行政が協働するまち』と題して市民活動を育成・支援する仕組みなどが明記されています。

自治会活動は、市役所の単なる下請けになつたのでは意味がありません。安心して暮らせる社会づくりを目指すためにも自治会活動こそが欠かせません。

◇箱田地域について◇

箱田常盤自治会長 根岸 一雄

箱田地域には、箱田宮本自治会、箱田常盤自治会、箱田神明自治会、箱田桜町自治会の四自治会があります。

区域内は、優良な住宅地と商業地域から構成されており、県や市官庁の大きな建物があります。

平成十九年より私が箱田地区社会福祉協議会の会長も兼務しており、四自治会と連携し自治会活動をはじめ社会福祉活動、文化活動に努めております。

箱田の地名は、その名が示すとおり、箱状の田圃が数多くあったことからその名が生じたと伝えられております。

また、武蔵七党横山党の箱田氏の在所であり、江戸時代後期は小さな村で上ノ村新田箱田村と記されております。

地区内には、市役所の裏に地元の人がお参りする箱田神社があります。

箱田神社は、箱田村の鎮守として古くは久伊豆明神雷電権現と称し、今もその名称の額が社殿内に掲げられております。

社伝によると、従五位下式部大輔「成田助高」の孫「成田広能」が当地に移り住み、「箱田右馬允」と名乗り、山城国加茂郡にある御祖神社、同国加茂別雷神社を崇敬したと言われております。

延徳元年（一四八九年）成田下總守親泰が忍城を攻めるにあたり、この神社に戦勝祈願しました。忍一族を滅ぼした親泰は、同三年新たに



箱田神社

忍城を築き居城とした際、戦勝祝いとして箱田神社に神田を寄進しております。

神社の祭礼は、毎年上之の雷電神社の祭礼と同じ日の七月二十七日、二十八日に行われており、両社が成田一族によって建立されたものであることがうかがい知れます。

また、箱田神社の北西には「蓮昭寺」があります。地域では、「念仏堂」と呼ばれ親しまれております。

当山は、蓮生山熊谷寺の分院として天正年間に「幡随意上人」が蓮生法師の念仏庵をこの地



蓮昭寺

に移したのが始めとされます。

天保年間に焼失、後に再建されましたが、平成に入り破損も甚だしくなってきたため、壇信徒と協議し修理に同意を求め、浄財のお願いに奔走しました。信徒の理解と協力により、平成八年には本堂の修理が終わり「阿弥陀如来」、「観音菩薩」、「勢至菩薩」を新堂に安置し盛大に落慶式を行うことができました。

箱田神社、念仏堂ともに、長く箱田地域の人々の安心安全を見守ってくださるでしょう。

◇大幡自治会連合会◇

会長 志村 豊

まず始めに大幡の名称由来を紹介しますと、「明治二十二年四月町村制実施の際、大里郡に属していた原島村と代村の二村と、幡羅郡に属していた柿沼村と新島村の二村とが合併して、大里と幡羅二郡の各頭文字を採って大幡と命名された」と、合併記念碑に記してあります。

さて、私も大幡地区は、自治会加入世帯数三、一九九戸（平成二十二年四月一日現在）、六つの単位自治会、柿沼、原島、代、新島、大幡団地、柿沼団地で構成された大幡地区連合自治会として、活動を共にしています。

急激な宅地化が進められた高度経済成長期に、市営大幡団地が建設され、同時に民間の宅地分譲が進み、人口が急増してきた地域です。

住民は、古くからこの地域で生活してきた住民と、新たに移民してきた住民とが入り混じっています。

そのため、一歩踏み出してみますと、地域の連帯感や信頼感、地域上の関わりが希薄化している、戸惑いや不安を抱いている方を多く見受ける今日であります。

そこで大幡地区では、「自分は、我が家は、大丈夫」と思う気持ちを捨て、まずは個人からご近所同士の連携を推進すべく、支え合い、助け合い、心のつながる共生交流の魅力ある定住圏づくり活動しております。

以下、自治会活動についてご紹介します。
一、公民館活動に対して物心両面の支援
イ、地域連合運動会



植付け作業

ロ、敬老会

一、熊谷消防団大幡分団への支援協力

一、自主防犯パトロール活動

一、校区連絡会活動

イ、三世代交流グラウンドゴルフ大会

ロ、農業体験事業

※玉葱の植付け作業及び収穫作業（小学校

低学年）

※ジャガイモの植付け作業及び収穫作業

さて、活動の一部、農業体験事業について紹介させていただきます。

市の「地域づくり応援事業」として、昨年同様、報奨金支給制度を活用し、地域コミュニティの活性化や人的ネットワーク形成を図るため、



収穫祭

小・中学生、PTA、長寿会、消防団員、農協関係者等、各種団体の皆様の全面的な御協力をいただき、八月二十二日、大幡中学校正門前の遊休農地を借用して、秋ジャガイモの植付け作業を実施し、十二月五日、来賓諸氏を迎え収穫祭を実施しました。百六十名余りの参加者による収穫祭では、収穫したイモを蒸して試食し、参加者全員に収穫物を分配、土産としました。予想以上の収穫、予想以上の参加をいただき、和気あいあい好評のうちに終了しました。

◇久保島第一自治会◇

副会長 小池 博

久保島第一自治会は、西一区の玉井地区に属し会員数は八百十世帯です。拠点は、約二九〇mの新自治会館です。久保島は広く、団地や住宅地の造成に伴い、三つの自治会(県営玉井団地、久保島第一、久保島第二)に分かれています。六年前に分離した第二自治会とは、今も子供会が一体であつて、諸活動で協力し合っています。

久保島第一の地域には、商工業・住宅地と旧村部があり、住民の生活様式や意識の相違点などもあります。そこで、合言葉を「住みよい地域づくり」「子供にとって良い故郷づくり」として、地域一体化を目指しています。役員が具体的な活動を示して住民の参画を促し、住民意識を呼び起こして愛郷心を高めようとしています。活動は、地域の特色や伝統を考慮して、

実施しなればならぬこと、誰でも参加できることを優先してきます。参加状況は、未だ十分とは言えませんが、主な活動事例を挙げてみます。



久保島納涼祭

納涼祭(盆踊り)の復興 八月の二夜(土・日)

伝統を誇った久保島盆踊りですが、時と共に住民の関心が薄れ、衰退の方向にありました。それを第一・第二自治会、子供育成会、明星会で共催。運営は百人近い役員が役割分担して、楽しい交流の場づくりに努めました。若い役員と子供たちのエネルギーに支えられ、住民参加も急増して、寄附のみで実施しています。

農地・水・環境保全活動 平成二十年(五年間)

国・県・市の委託事業「農地保全活動」は三年を経過し、実施した活動は、用・排水路の浚



ヒガンバナ(曼珠沙華)の開花

渫や雑草の刈り払い、休耕地の活用や自生するヒガンバナの分布調査と保護活動などです。『第七回曼珠沙華の里祭り』には、幼児から高齢者までの地区民などが、七百人余参加しました。

年二回のごみゼロ活動

五月末、九月末

懸案だった地区内の不法投棄場所を、役員が重機や軽トラを駆動して大掃除したことを契機

に、全区民によるごみゼロ活動が始まり、八年になります。

家族や近所の人々が集い、協力し合う活動は、毎回六百五十人余が参加。年々、ご

みの量が減少しています。この際、ごみの分別方法を復習するので、家庭ごみの出し方も改善されています。

鎮守様の初詣、村祭の支援 元旦、三月

伝統的な祭を復興させようとする住民の活動を、自治会としては見逃せません。しかし、宗教上の関わりには制限がありますから、一線を画して、側面から支援できる活動を探っています。初詣客は七百人。お獅子様祭も復興中です。

その他の活動

さくらマラソン大会では、開催地として給水ボランティアを務めています。懸案の市道延長、通学路の拡幅工事、防災活動も具現化してきました。これら詳細情報は、毎月の理事会資料(回覧)でお知らせしています。



曼珠沙華の里祭り

平成22年度県外研修

11月9日、189名の自治会長の参加による県外研修を開催しました。

本年度は、「村上市における市民主導のまちづくり」をテーマに新潟県村上市においての研修でした。

村上市は、越後最北の城下町として栄えた歴史あるまちで、その地域の資源を活用したまちづくりが市民主導により行われています。

「人形さま巡り」、「屏風まつり」など古くから伝わる伝統行事を復活させ、「黒塀プロジェクト」、「町屋の外観再生プロジェクト」により街並みを再生しています。また、毎年7月7日に開催される「村上大祭」は、350年以上続く歴史あるお祭りとして、多くの観光客が訪れています。

研修当日は、雨と風という悪天候のため、当初予定されていた街並みの視察はできませんでしたが、村上市観光ガイド会、村上町屋商人会、村上まつり保存会の市民活動3団体による講演が行われました。



村上町屋商人会



村上まつり保存会



村上市観光ガイド会

参加した自治会長の感想

- * 村上市は城下町、熊谷は宿場町と違いはあるものの、その土地の特色を活かした取り組みをしていくことが大切だと感じた。
- * 地域の人がまとまり、1つのプロジェクトを遂行していく姿勢は見習わなくてはならないと感じた。
- * まちおこしのために立ち上がる姿勢に刺激を受けた。

新任自治会長研修会

6月24日と25日に、本年度新しく自治会長になられた方を対象に、自治会のあり方や運営方法、市との関係を学び、円滑な自治会運営が行えるよう新任自治会長研修会を開催しました。

研修会には、61名の自治会長の参加があり、自治会制度、連合会の事業、自治会に関連する市事業などの説明、「自治会活動の実態」と題して、弥下自治会の栗田会長、籠原自治会の宗我部会長を講師として、自治会活動の状況をご紹介いただきました。

参加した自治会長の感想

- * 前任から引き継ぎが無かった部分、知らなかった部分を知ることが出来て良かった。
- * 個々の自治会運営の基本活動は同じでも、各自治会によって特色があり参考になった。
- * 資料が完備されていて、自治会を運営する上で非常に参考になりました。



妻沼会場



大里会場

第1回 親睦グラウンド・ゴルフ大会

7月5日(月)に、熊谷スポーツ文化公園内「彩の国くまがやドーム」において、第1回親睦グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。

この大会は、常日頃各自治会で活動している自治会役員が、グラウンド・ゴルフを通じて他の自治会との交流を深めるとともに、参加者の健康の増進を図ることを目的とし、本年度初めて開催しました。

70チーム、341名の選手に参加していただきましたが、初めてクラブを握る役員さんも多く、和やかな雰囲気の中、一日白熱した接戦が繰り広げられました。



市民活動イメージキャラクター「ニャオざね」始球式

大会の結果

- 優勝 三尻自治会連合会 Aチーム
 準優勝 上石自治会連合会 Dチーム
 第3位 成田自治会連合会 Aチーム
 当日賞(第5位) 月見町一丁目自治会チーム



大会の様子

自治会への加入を お願いします



日常生活の中で最も身近な自治組織として「自治会」はあります。各自治会では、自治活動を行うほかに、市報等行政からの情報配布、防犯灯やゴミ集積所の管理等を行って、住み良いまちづくりに努めています。

市民がお互いに協力し合い、安心安全で快適に暮らせるまちをつくるため、自治会への加入をお勧めします。

自治会への入会希望の方は、お近くの自治会役員にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

編集後記

就職氷河期と言われるなか、団塊の世代の方たちが地域に帰ってこられる春がもうそこまでやっています。早く地域デビューが出来て、地域に溶け込めるように準備をしたいものです。

「新任自治会長研修会」では、新任会長さんの真摯な表情が浮かんできます。

「県外研修」では、研修地の市民団体等の意欲や考え方にも触れ、良い刺激になりました。

各連合自治会コーナーでは、伝統を守りながら新しい事業や、世代交代・新住民とのふれあいに碎身する自治会長の苦闘が如実に顕れており、感銘して読ませていただき大変参考になりました。

今号も、たくさんの方々からご寄稿いただき大変感謝いたします。各自治会長のご健勝をお祈りし、併せて「ひろば」のご愛読をよろしく願っています。

副会長 宗我部 悦功